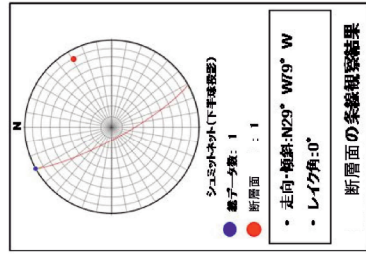
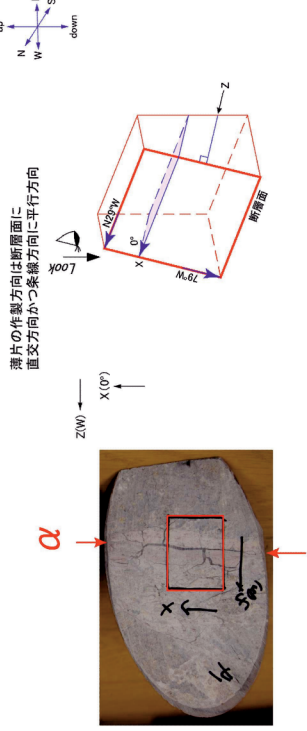


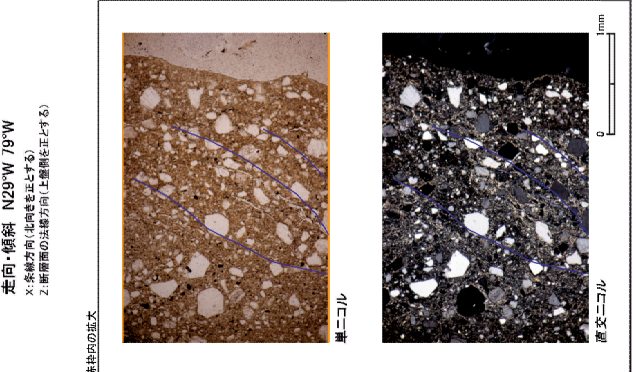
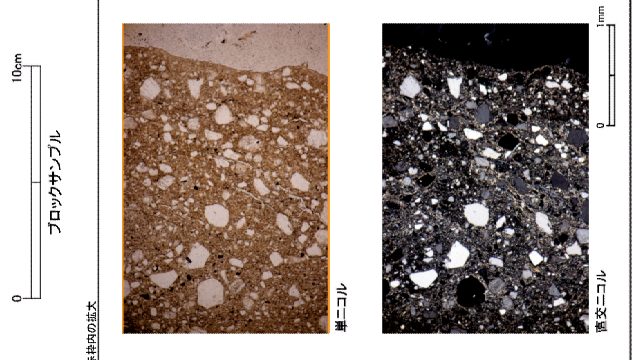
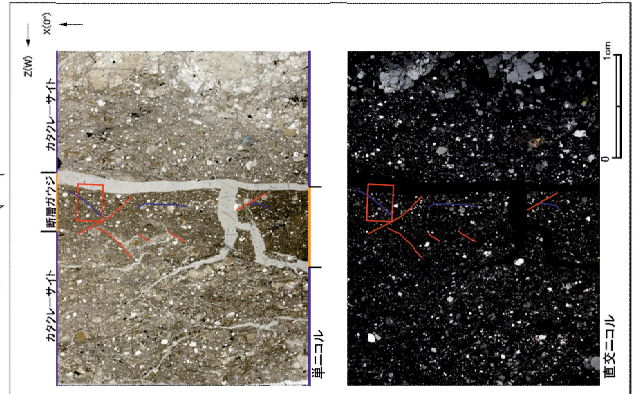
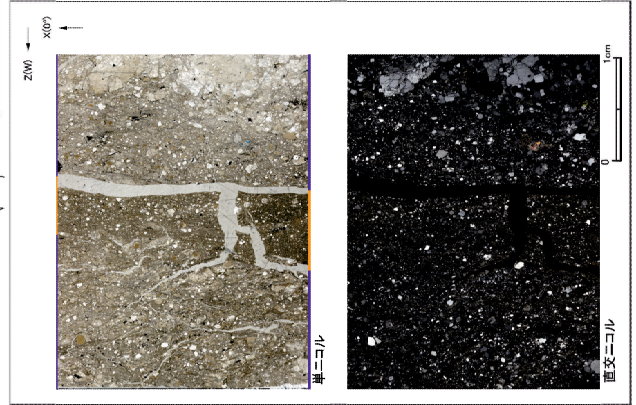
・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれ成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
 ➢ (断層ガウジ) セン断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 ➢ (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
 ➢ 岩片は少ない。
 ➢ (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。
 ➢ (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
 ➢ (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。



※断層面 α は最新活動面

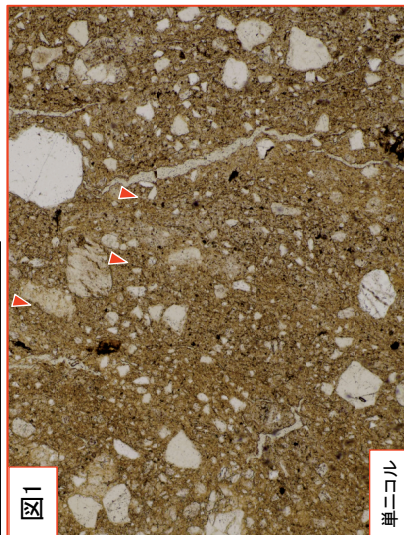
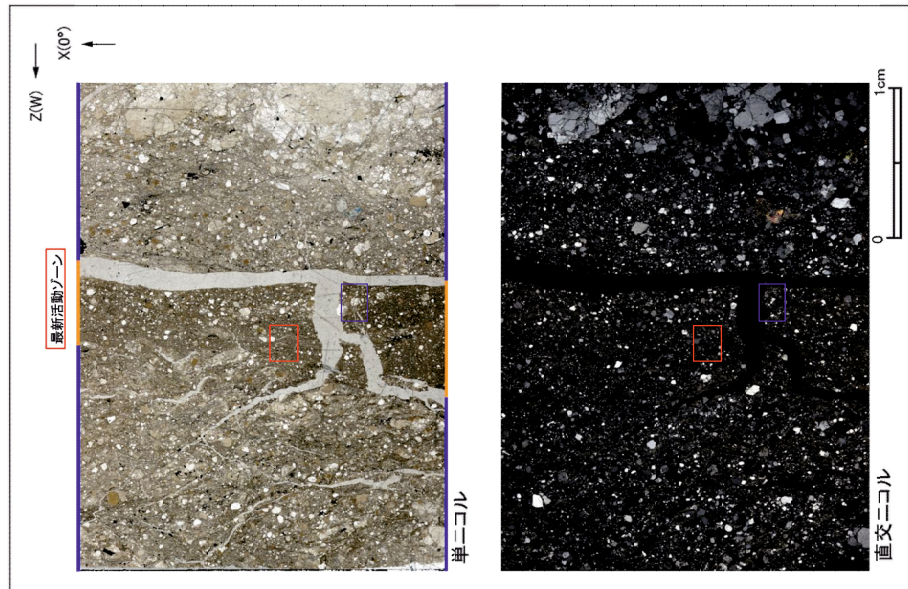


断層面の条線観察結果

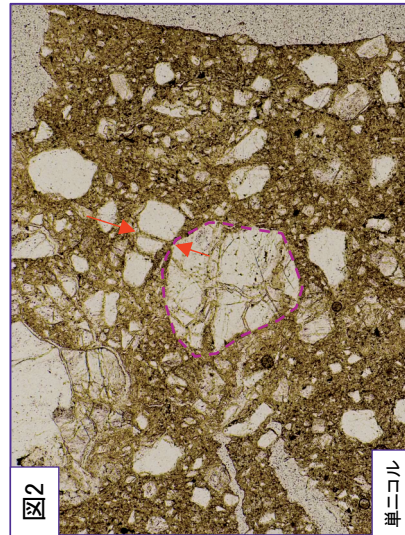


凡例	
—	断層ガウジ
—	カタクレーサイト
—	R1面
—	P面

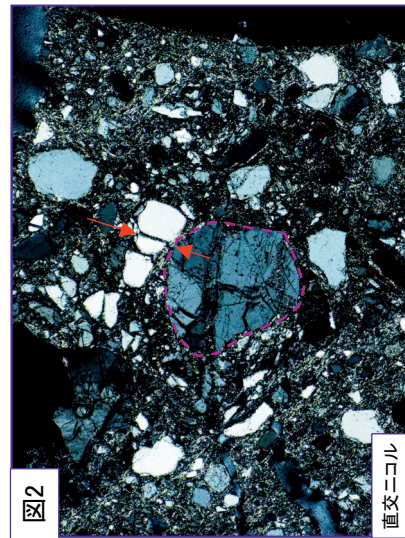
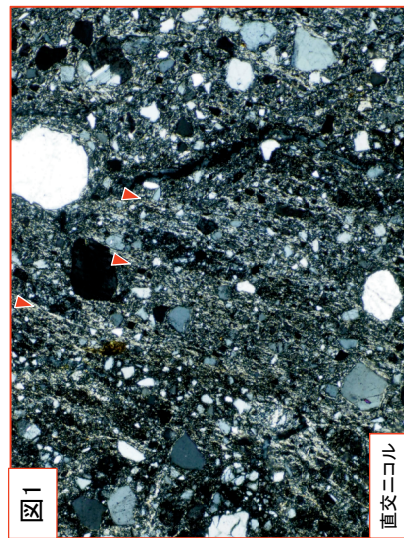
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図1)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 岩片は少ない。(図1)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図1)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



赤三角の方向は粘土鉱物の配列方向を示す



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



(肉眼観察結果 深度81.30m)

- 肉眼観察では、粘土状部は、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 岩片は少ない。
 - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
 - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
 - ジグソー状の角礫群が認められる。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	0.4	無

*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度89.91～89.93mの「礫質粘土状」と記載の箇所については、角礫状の岩片を多く含む、やや軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片からなる組織も細粒化しない。これらのことから断層角礫であると判断した。

・深度89.93～89.95mの「粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

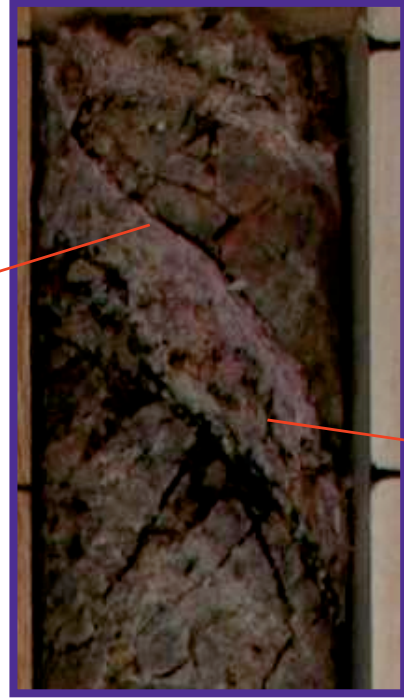
ボーリング柱状図

●89.91～89.95m：破砕部
 89.91～89.93m：礫質粘土状部 (Hb)
 上端50°で直線的に、下端45°で波打って連続。径5～10mmの岩片を30%程度含む。やや軟質。明赤灰色を呈する。幅12～15mm。
 89.93～89.95m：粘土状部 (Hc-1)
 上端45°で波打って、下端45°で直線的でシャープに連続。径1～2mmの石英粒をわずかに含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅2～5mm。

コア写真



連続性及び直線性が良い細粒部



角礫状の岩片を多く含む

第7.4.4.256図 (1) 破砕部性状 H24-D1-1 深度89.91～89.95m (肉眼観察による断層岩区分)

・薄片は断層面 β 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面 β は最新活動面

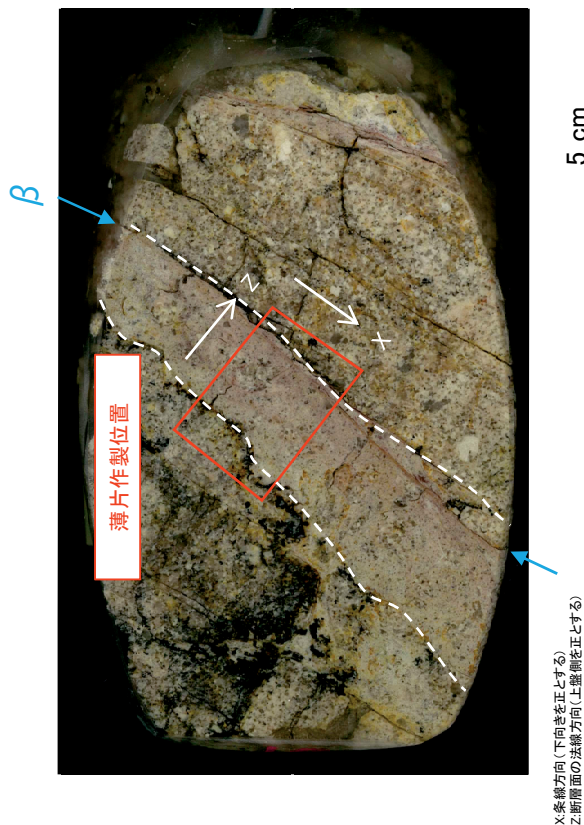
コア写真



凡例

- 断層ガウジ
 - 断層角礫
 - 断層面
- ※:写真上は白色で記載

薄片作製位置写真

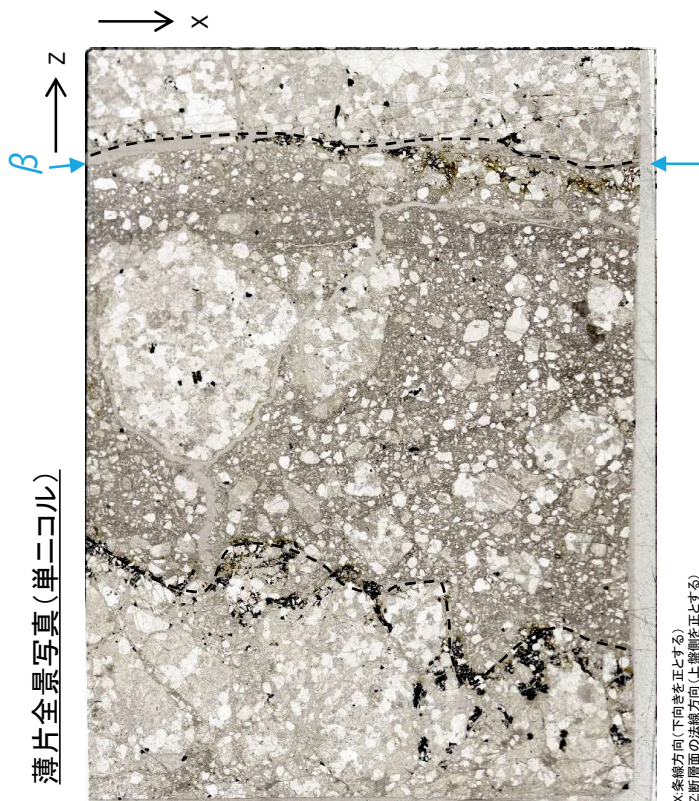


X: 撮影方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

凡例

- 断層面
 - 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲
- ※:写真上は白色又は黒色で記載

薄片全景写真(単ニコル)



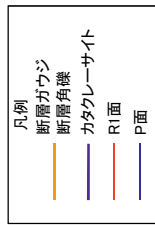
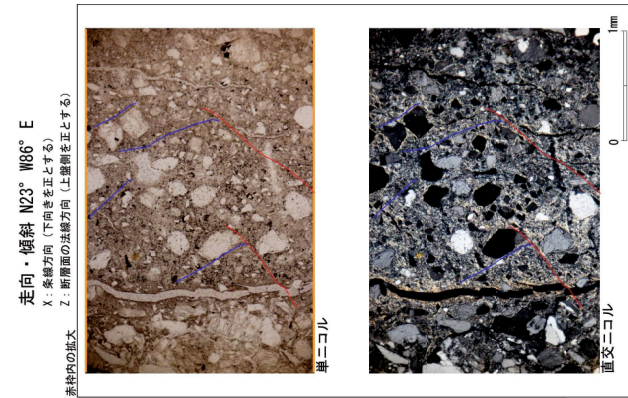
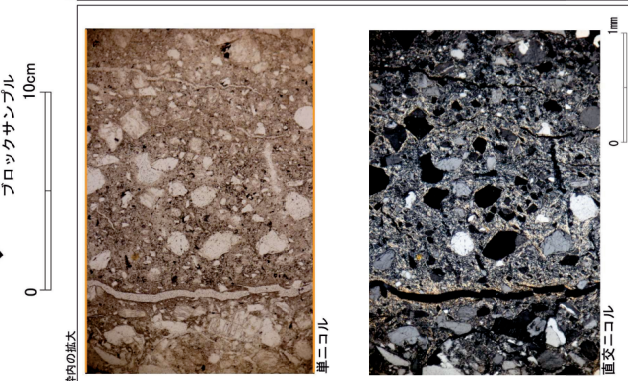
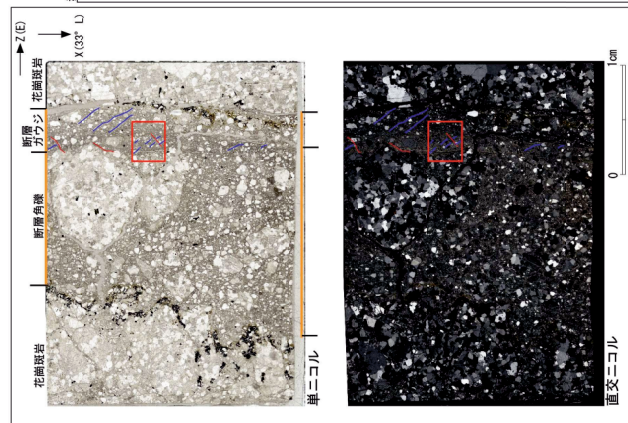
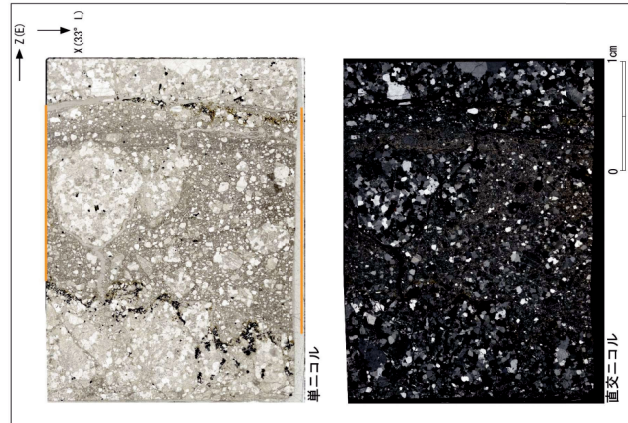
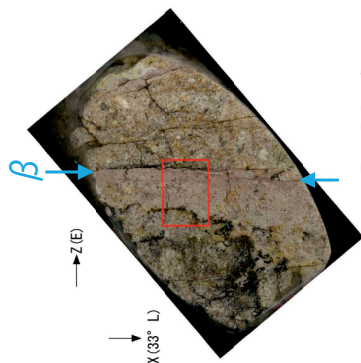
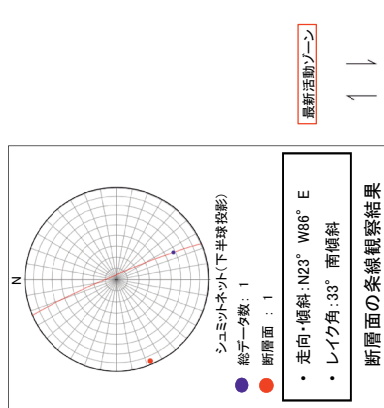
X: 撮影方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

1 cm

第7.4.4.256図(2) 破砕部性状 H24-DI-1 深度89.91~89.95m (薄片作製位置)

- ・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 - (断層ガウジ) せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。

※断層面βは最新活動面



第7.4.4.256図 (3) 破碎部性状 H24-D1-1 深度89.91~89.95m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))